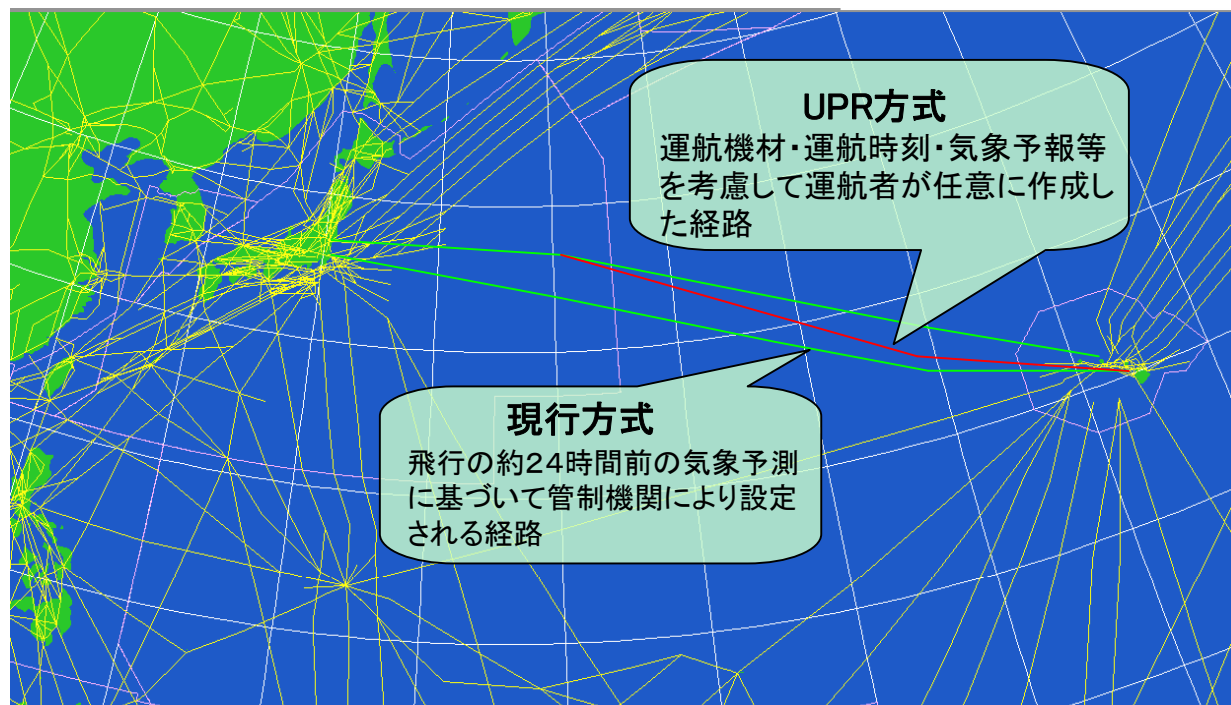


洋上空域におけるUPR方式の実施イメージ



【参考】

日本・ハワイ間におけるUPR導入効果の試算

消費燃料削減量(年間) 約314万ポンド
約177万リットル
ドラム缶(200リットル)換算で、約8,850本

CO₂ 削減量(年間) 約4,350トン
一般家庭(年間排出量約5.3トン)で、約820世帯分
一般家庭の年間排出量は、(独)国立環境研究所・「温室効果ガスインベストリオフィス」による

削減金額(年間) 約1億6千万円

シンガポール市場のケロシン価格の2008年1月～6月の平均値(1ガロン=3.2ドル)で算出
1ドル=108円(2008年8月5日の為替相場)で算出

※ IATA試算(ある会社の実際の運航実績と燃料消費上最適な経路を飛行した場合を比較したもの)を基に、日本-ハワイ間に就航しているすべての機材の消費燃料削減量を算出した上で、定期便の半数がUPR方式により飛行した場合の試算。